

刊夕日一十月五



定価 一ヶ月五拾圓 三ヶ月十五圓 半年三十圓 一年六十圓  
 廣告料 五號十二字 第一行 五拾圓  
 日曜祭日の翌日 休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

李官堡の激戦と

大越中佐の戦死に就て (七)

岡本少将閣下御前講演

其後餘程遅くなつてから第一大隊等の増加隊が西より逼迫して之れを奪取し遂に廟も占領した模様でありましたが、其當時私は既に負傷しましたので其後の眞の状況は存じません、其れからはどうしても突進の機會がなく益々増加します。すので爾來此突角の我據點たる此家を奪取せられぬと云ふ事に専念考慮しました其頃より逐次北方より撃退もられるものを收容し尙更に突進の場合の用意とも思つて突角の左寄り少し高い所(地上三尺、現在御覽の當時の孔跡あり)ます通りに)先づ一人の這入り得る穴を作りました、之れは走り来るものが其儘上体を前に投げ出せば丁度腰部が懸り其上体を引張込むにも一番樂である云ふ様に大に意を用ひて作り上げました若し突進の爲めぬひ出しが必要とあれば其下の部分のみを除けば可なるものにして當時適當のものと思惟しました幾多の戦友も敵集中火の下に神速に牽込み收容し得ました、而して遂に掛けもなく我大越大隊長も

此孔から收容したと云ふ眞に奇蹟的の孔でありました其方法は先づ收容すべき人を見れば先づ其孔から大隊旗を出して振りました。即ち敵火の死角を利用する考を以て先づ廟の東側の前に來り得直ぐ之を引張込むと云ふ始末でありました。此穴から數人を收容した後のこと凡そ二三十名と覺ゆる露兵の壓迫を受けつゝ北方から此斜右前の家屋に退却し來つた十二三名の一團があつたが其中に我が大越大隊長が交り何に彼と指揮し居らるゝのを見た時我等は眞に夢の様な心持がした、直ちに三名は穴から飛び出して廟の突角に取り付き手を舉げて呼び穴からは大隊旗を出して振り廻した其音聲の如きは四隣の喧しき戰聲に妨げられて到底達するものではないが大隊旗を認識せられたる大隊が屹として陣を定められたる有様は今も眼に見る様であります。

夫れと見られた大隊長は當方に向はるゝのであるが此時は既に二三の露兵が彼

の入口の土壁に廻つて居たのであります、當方から二三名が之れを狙撃は致しましたが、先づ第一は分部と云ふ當隊大隊長に隨行して居つた少尉が眞直ぐに此穴を目撃して疾馳して來たが十四五歩進むと廟からの側射で撃ち倒れ、次に大隊長は何か語り合つて居られたが先づ四五名の兵卒が出口から飛び出して出口附近に居る露兵と渡り合つて居るに大隊長は直ちに飛び出さした我方より更に廟壁の敵に制壓射撃を加へた。



病室の友へ

黒井春美作

一 淋しきものよ春の暮  
 病みにし人の窓の邊に  
 赤い夕日が沈む頃  
 君や想はん我故郷

二 淋しきものよ春の暮  
 静けき病の窓の邊に  
 ほろり悲しく花が散る  
 淋しきものよホスピタル

三 淋しきものよ春の暮  
 タべまどろみし君が影  
 白いベットにうずもれて  
 静かに通う夢の國

**堂々**  
 斯界の群を抜く  
 最高級車プロモス號  
 今般増車致しました  
 何卒御用命は  
**電話三九五番へ**  
**セリザワタクシー**  
 平町新川端(釜屋新宅向)

**内科 難波 睦**  
 醫學博士  
 電話五〇二番

**女給さん數名募集**  
 ランチルーム 一の井  
 希望ノ御方ハ平町十五丁目  
 一の井へハガキデ申込下サイ

**花柳科専門 木村外科醫院**  
 入院自炊の便あり  
 平町五丁目橋際  
 電話三〇九番

**踏デモ叩イテモ**  
**絶対コハレヌ時計硝子**  
 丸型時計入替 二十 十 錢  
 角型時計入替 四十 十 錢  
**秋山時計店**  
 平 驛 前

**玉屋洋品店**  
 平町田町通電話六五六番

**鹽豚販賣開**  
 三二二三屋  
 平田町

**度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器**  
**關内藥局**  
 電話四〇番

**新茶** 入荷致しました  
 ◎一斤 二、〇〇 一、六〇  
 香りのヨイ  
 御來店の方に一服呈上……  
**大勝園**  
 電三九六番

### 逝く春と共 博覽會總決算

# 果して如何?

## 親しまれた平町に 永遠に告ぐる別れ

開期四十日間朝夕平町に親まれた「我等の博覽會」も昨日の褒賞授與式を名残りとして逝く春と共に平町の一角から永遠に其のいみじき姿を消し去る事になった。今日——風雨にさらされた會場は第一會場の高塔頂上に未だはためいて居るが早朝から詰め掛けたトラックや荷車等に依つて陳列品は何處ともなく運び行かれ、既に内部の取り壊しにかゝつた鐵槌の音も吊鐘にまさる惜別の哀愁をふくんで、後形付に働く女看守の色あせた上衣も物悲しさの一つである。斯ふして幾日かの後には華やかな殿堂の跡が、土くれ轉ぶ空地となつて初夏の陽に雜草は生いひこる事であらう、それにしても「我等の博覽會」の成績はとうであつたか收支の道を問ひ合した處に依ると以下の如くである。

### 不況時としては

## 正に大成功

### 雨に崇られても

### 差引約百廿圓の殘

正に春のクライマックスに入るべき花時に雨に崇られたとは云ひ收入左記の如くである

△五千四十九圓五十錢  
出品料△一千三百廿四圓五十錢 雜收入△四百九十圓  
十圓場外賣店上代△七十圓  
僅少 出品代△一萬一千三百七十九圓七十錢  
入場料  
合計一萬八千三百三十三圓七十錢を示して居る、而して支出は

△五百四十四圓八十五錢  
創立費△建築費七千八百四十四圓四十六錢△三百卅二圓四十五錢 印刷代  
▽百七十七圓四十四錢  
通信費▽五十五圓十五錢  
舉式費▽九百九十四圓六十八錢 勸誘費▽一千八百卅四圓卅錢 入費▽三千六百八十七圓八十三錢  
設備費▽五百五十六圓五十六錢 宣傳費▽三百七十八圓六十九錢 裝飾費▽一千六百九十三圓九錢

合計一萬八千八百九十四圓卅錢であるから是れを收入から差引と百十九圓四十錢の利益となり先づ以つてトンの調子迄摺ぎ付け得たのは不況時である丈に大成功といはなければなるまい

### 校庭と

### 村道修理に

### 奉仕的行動

石城郡澤渡材青年訓練所では十八日午前七時より青年團と協力し同村小學校庭及び村道の破損箇所を修繕の爲め奉仕行動する事になつたと

### 健康兒

### 平の推薦

平町第二、第三兩小學校には此度東京朝日新聞社主催の優良児童表彰に左の生徒を推薦したが第一小學校にては目下調査中であると

- △第二小學校 中村春子(六ノ二)
- △第三小學校 鈴木福壽(六年) 鈴木ヒデ(六年)

### 平第二校虎眼

二小學校に於ける本年度トラホーム患者は尋常科(中一名、輕四十九名)、高等科(中一名、輕九名)であると

### 雨難を語る

## 皮肉な賣上

### 總額四千二百圓

### 岐阜の傘が最高位

博覽會内の即賣品總賣上高は四千二百六圓に達して居るが此の内最高の賣上高は岐阜縣の八百五十九圓である、これは傘が大半を占め

十圓、仙臺市が五百五十圓、山形縣が四百四十四圓、米澤市の三百十五圓等が主なるものであつた

體操教師新任 磐城中學校に於ては本日午前八時今回體操及び劍道の教師として赴任された大淵彌次郎氏の新任披露式を舉行したが同氏は東京府下大井の日本體操學校出身であると

### 反目を惶れて

### 優勝旗を廢す

### 對校野球試合に

磐城中學校對平商業學校野球戰の優勝旗に對しては優勝旗を授與する筈の處兩校の事情上反目を惶れ協議の結果優勝旗を授與せざる事に決定したと

### 牝馬体型

### 標準を檢査

石城畜産馬産組合では郡下各村に於ける特選牝馬の体型標準檢査を行ふ事になつたが上遠野は廿三日澤渡、田人は廿四日であると

### 圖書研究教授

二小學校にては本日午前十一時より松本訓導が六學年生に對し圖書の研究教授をなし終つて職員一同にて批評會を催した

### 求人部

△出前持二十才迄 尋卒

### 税額調査

### 委員長に猪狩氏

平稅務署では昨日より全管内の本年度に於ける第三種所得額の調査及び乙種資本の利子額營業純益金額の各稅調査委員會を廿日間に亘つて開かれる事になつたが委員會長には平町の猪狩庄平氏が當選した

### 平町人事

△應匠町十一佐藤伊太郎氏 三男博信  
△仲間町一三蓮實助義氏四女ミヨ  
△回 婚 姻  
△仲間町西澤常雄氏(二四) 七軒町二八荒山トク(二三)

## 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

### 募三勇士遺族の

主唱 阿部政右衛門  
後援 常磐毎日新聞社  
寄附者芳名 第三十回分  
南町 深澤 佐武郎  
同 佐藤 永春  
同 三平  
同 大勝 一  
同 薄 源次郎  
同 佐久間 義光  
同 伊東 喜郎  
同 山下 喜代美

### 知事の洩らした

## 一言に

### 力を得た町當局

#### 国道舗装工事最後の運動に町長一行上京

既報平町の国道舗装工事並に長橋、鎌田二橋の換替工事は其後内務省の方針に依ると七年度には国道改修を行はずに縣道改修に補助する模様なので折角運動を續けた平市民も失望の體で居た處昨日來平せる村井知事が舗装工事は主務省でも全然見捨てた模様とも見えなから今一度運動してはとの意嚮を洩らしたので町當局は此處に一沫の希望を抱き伏見町長及び二三町議一行は明朝の準急列車にて上京在京三代議士と協議の上内務省に最後の陳情を行ふ事になつた

### 米相場は依然強氣

#### 平倉庫の共販

石城販賣利用組合の平農業倉庫では過般在庫米の共同販賣を行つた處政府の買換策を見越して居る爲め俵数は少なかつたが四等十六俵五等十四俵合計三十俵を入札四等建値八圓四十八錢にて全部平町久保木林之助氏に落札したが買換策を控へて居る事とて本月一日大浦農業倉庫の共販八圓四十錢よりは八錢高を示し今後共高値は續く模様であると

### 農繁期の託兒所

#### 本年は多數開設

石城郡下における季節託兒所は農繁期に向つて各方面から尠からず歡迎されてゐるが

最近殊に、その必要を認め炭礦地帯、農漁村山間部と自ら其施設も方部的に適當な設備がされるものと觀られてゐる期間は概ね二週間乃至三週間昨年は郡下を通じ植田町外六ヶ所に

動日に當るので課後放男教員は野球女教員はキックボールを行ふと

### 磐城沖合に

#### 鯛の大群來

磐城海岸沖合一帯に潮の加減で今年は例年より早く鯛の大群が來るといふ吉報もたらされたので各濱は非常に活氣づき目下網入を急いでゐるが豊間大敷網では昨年より十五日早く二十日頃から網を入れることになつた

### 患者を襲ひ

#### 隙を見て窃盜

#### 二人組の怪漢

十日午後六時頃平町南町増田醫院に患者を裝つて二名の怪漢が應接室に這入り込み家人の隙を見て室内に掛けて置いてあつた増田氏所有のオーバー(時價百圓餘)を窃取逃走せるので驚いた家人は直ちに平署に急報同署員が自轉車にて追跡驛前にて大格闘の上取押へたが右は住所不定若松市榮町生れ武藤貞藏(三)安積郡穂積村生れ猪越三郎(三)の兩名と判明し餘罪多數ある見込で取調中である

#### 村井知事が

#### 御機嫌奉伺

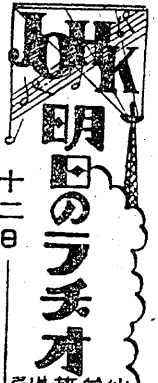
昨日昭和産業博覽會閉會式に參列せる村井知事は午後二時自動車にて平町を出發目下磐崎、小名濱方面にて陸軍士官學校の實測演習に御參加あらせらるゝ朝香宮李鍋兩殿下の御機嫌奉伺に向ひ平町午後四時四十五分發列車にて歸郷した

### 梨園に奇病發生

#### 幼果が枯死の状態

#### 赤井村の被害甚大

石城郡赤井村大字大平果樹組合の梨園に最近病因不明の病害が發生し發育中にある幼果を枯死の状態に陥ら



明日のラジオ

今晩は北東の風薄曇り明日は朝晴段々寒る

### 今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 管絃樂 東京ラヂオオーケストラ 指揮平野主水
- 後七、三〇 演講「郷土教育の本義」文部省普通學務局長武部欽一
- 後八、〇〇 謠曲「龍太政」觀世左近外
- 後八、四〇 連續浪花節「の海動藏終席」木村重友
- 後九、三一 奉天より

### 明日の部

- 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
- 前九、一〇 料理献立「章魚の櫻煮・十筆のふくめ煮」東北女子職業學校
- 前一〇、三〇 家庭講座「日本間の椅子設備」(一)木槍恕一
- 後一〇、五二 絃琴 藤舎芦雪
- 後二、〇〇 家庭講座「箏」

### 自轉車を盗み廻る

平町久保町柴田基(三)は數日前平區裁判所に置いてあつた石城郡神谷村字下神谷木村徳松所有自轉車を窃取逃走せる事發覺平署に取押へられたが他にも自轉車窃取五件を自白したと

### 今朝高久海岸に

#### 戦闘機不時着陸

#### 發動機に故障

石城郡高久村字北野海岸に今朝高久海岸航空隊兵曹長加藤榮氏(三)操縦の戦闘機二〇八號が不時着陸し四邊には群集山を築いて居る同機は仙臺へ向ふ爲め本日午前六時館山を出發したものであるが發動機に故障を生じた爲め不時着陸するに至つたものにて幸ひ加藤兵曹長は無事で

### 平裁判所便り

△石城郡湯本町大字湯本字笠井二十四番地自動車運轉手佐々木徳吉(三)は本年二月七日内郷村綴地内

### 藤沼醫院

平町紺屋町 電話七〇五番

△石城郡湯本町大字湯本字日渡六十番地目下住所不定荒川文吉(三)の住居侵入及窃盜事件に對し平區裁判所に市川檢事より懲役一年六ヶ月を求刑された事は昨報の如くであるが本日中島判事より懲役一年を言渡された

# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫畫雲

〔第四十七席〕

眞庭念流達人櫻井五助

あの革の巾著……

村上主殿の僕馬鹿の六藏はおかめの持つて来た徳利を見ると

六「有難い、前前は此處の女中でお針さん、俺は仲間だ、然し朋輩だナ、猫も朋輩、鳶も友達といふ事がある、有難い、この中は酒だらうな」

かめ「これは旦那の召上るお酒だが内緒で持つて来たんだよ」

六「お前さんは親切者だ、それだから土藏に締め込まれた七郎次さんの許へ食物を遣る、どうも今度の事は旦那が宜くないな、金を落したとて土藏へ閉籠めるとは殺生だ、苦しめたとて落した金は返るまい」

かめ「お前は馬鹿だが偶には理窟に合ふ事も云ふね」  
六「それは俺だとて人間だ馬鹿六だとて犬や猫よりも分別はある、もう、こん

心郎にはおられねえ、然し貸があるからそれを取らねえうちはお暇を貰うことは出来ぬえ」

かめ「オヤ、お前はお給金の貸があるかえ」

六「あるとも一昨年の十二月に一兩二歩借りて、あの

は備後の鞆の保命酒だ  
六「へえさうかえ、馬鹿にしてるやアがらア」  
かめ「あつちへ行つて寝たら宜いだらう、仕事の邪魔になるから」  
六「お前さんもお寝みなさいだ、旦那は能く睡てゐるせ、毎時も大事にしてゐるあの革の巾著も投げ出してあるが、あの中にはいろいろいな鍵が入つてゐるナ」  
かめ「オヤさう早くお前も寝るが宜い、明日は又早いかね」  
六「それでは御寢所に引き



な人聞きが悪いや、まあ宜いや酒を御馳走になつたからナ、旦那は周一郎様から贈つて来たびん芝の巴御前といふ酒を飲んで、是は薬になると云つてゐなすつた、巴御前が貧乏して拵へた酒だかね」  
かめ「何を云ふんだね、あ

は公坊様だとて俺だとて同じ事だ」  
かめ「まだ何か云つてゐるの、男のくせにお喋舌だね……」  
六「愈々引取るぜ、ドレ面白くても見るかナ、オツト危い」  
とよめきながら仲間部屋に引取る、跡におかめは熟と考へたが今あの六藏の話によると主人主殿が大切にした居る鍵の入つた革袋を枕頭へ投出して置いたとの事、あの中には土藏の鍵も入つてゐる、それを盗み出して七郎次を助けようと思つた七郎次は忍び足して直し小棲を取上げ忍び足して主殿の寢所に入り見ると主人は高野で睡てゐる隅の方には行燈が置いてあり、それが睡むさうに光つてゐる、蒲團の外にあつた革袋を取上げ、それを懐中に入れて出ようとしたがこればかり窃むと自分が七郎次を助け出した事が知れるであらう、賊の入つたように見せずばなるまいと、次の間に來て戸棚を開き金筆筒の錠を開け金を掴み出してこれを袂に落し障子を開いて下りそれから切戸をひらき外より賊の入つたやうにして今度は土藏に來た、この土藏は構へ内の北の方にあり、母家とは離れてゐる、革袋から引出した錠  
かめ「七郎次さん起きてゐるかえ」  
七「おおかめか、起きてゐるぞ」  
かめ「錠を持つて來たよ」  
七「それは有難い、この錠をあけてくれ」  
かめ「待つてお在で」  
十個ばかり紐に下げてあるかぎを開き  
かめ「あいたよ」  
七「さうかさあこの戸を」  
かめ「大層重いね」  
力を入れて綱戸をひらき  
かめ「出てお出で」  
七「あ、助かつた、然し是からどうして宜からうか」  
かめ「わたしの實家について隠れてゐるが宜からう、お前は身体が疲れてゐるかから十日でも五日でも養生してそれから遠藤様の御新造を訪ねて旦那の悪い事を話したら宜からう」  
七「然ういふ事にしよう」  
かめ「私の親父の許を知つてゐるね」  
七「ウン知つてゐる、直江津だナ」  
かめ「漁師の又兵衛と云へば直に判るよ、さあ是を小遣に持つてお出で」  
と袂から取出した金。

上田 外科醫院  
平町 南町  
電話二一九番

看護婦急派  
の求めに應  
じます  
平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

申上げます  
此度聚樂館南隣りの「世界」と云ふ  
カフエーを私の姉が經營する事になりました姉は人の好い割に不運な身の上でした弟として私は何とか幸福な老後を送らせ度いと存じます。充分勉強するさうですから何卒皆様御ひいきを願ひます。

伊藤 一  
平新川町十九

木村病院  
電話一六四番

産科 院長 木村寅次郎  
婦人科  
内臓外科 醫學士 松永憲一  
整形外科

貸切は●●●  
セダン揃ひで  
貸切専門の  
昭和タクシーへ  
電話三四三三

赤い目  
かゆい目  
一滴できく  
目薬 神 水 (新容器入)  
家傳  
平町二丁目(電話三三六)  
堀 藥 局

サロンの多クメ告ル  
サロンの多クメ告ル